



大砂土中だより

はっ らっ
澗 刺 と

さいたま市立大砂土中学校

048-684-8004

<http://osato-j.saitama-city.ed.jp>

No.11 平成29年 3月1日号

成長の足跡を振り返る

校長 清水 一司

本年度も余すところ一カ月となりました。保護者や地域の皆様には、この一年間、本校教育活動に対しご理解とご協力を賜りましたことに御礼申し上げます。3月は卒業や進級といった節目の時期を迎えます。そこで学校では、教育活動のまとめの意味を込めて、子どもたちに一年間の成長の足跡を振り返る学習に取り組ませているところです。

この一年間を振り返れば、「数学が理解できるようになった」「生活に落ち着きが出てきたと褒められた」「持久力がついた」など、多くの子どもたちが学習面や生活面、体育面での成長を実感できたものと思います。成長を実感できるということは、子どもたちにとってさらなる成長への意欲につながります。たとえわずかであっても、成長した部分については大いに自信をもってもらいたいと考えます。一方で、「学習に時間をかけたのに期待するほど成績が伸びなかった」「目標としていた部活動の大会で、良い結果を残すことができなかった」など、失敗や残念な結果も多くの子どもたちが味わったのではないかと思います。しかし、これらのことも見方を変えれば、「学習に努力することができるようになった」「目標に向けて精一杯がんばることができた」など、成長とも捉えることができると思います。失敗や残念な結果だと子どもたちが受け止めているのは、子どもたちの設定した目標が高かったことの証です。これは、決して否定すべきものではなく強い向上心や高い意欲の表れだと考え、目標に向かって精一杯努力した過程を評価してあげたいものです。

しかし、失敗や残念な結果は時として挫折やストレスにつながる場合があります。ほとんどの人は挫折したりストレスにさらされたりすると、「この状況から逃れたい」「こんなはずではなかった」などと考えるのではないのでしょうか。挫折やストレスは辛い記憶となることもあり、できれば避けたいというのが本音です。ところが、挫折やストレスが必ずしも悪い結果ばかりを残すとは限らないようです。オーストリアにノーベル医学生理学賞を受賞したローレンツという動物行動学者がいました。ローレンツは、「苦痛を味わうことの無い子どもは、将来、人間的に不幸になる」と言っています。挫折したりストレスにさらされたりする経験がない子どもは、努力をすることを知らないまま成長することになり、結局は本人のためにならないということなのでしょう。このように考えるならば、挫折したりストレスにさらされたりした時には、「この状況は自らの成長を助ける」と考えるのが良いのかもしれませんが。大切なことは、過度に結果のみにとらわれず、目標に向かって精一杯努力をすることではないかと考えます。

世の中の人が、全て思いどおりの人生を送っているわけではないでしょう。むしろ、思いどおりにならなく、失敗や残念な結果を味わっている人の方が多いと思います。それだけに、中学生の子どもたちに、「人生は思いどおりにはならないものだ」ということを学習させることは、社会を生き抜くために必要なことだと考えています。そして子どもたちには、思いどおりにならない時に、努力によって失敗や残念な結果を自分の成長の糧へと変えられるような強さを身に付けてもらいたいと願っています。この意味からも、この時期に成長の足跡を振り返る学習に取り組ませることは大切だと考えています。